

興譲館の梅



【学校教育目標】

やさしく、かしこく、たくましく

笑顔の花咲く 桜っ子の育成

～すべては子ども達の自信のために～

小城市少年少女の声大会

令和7年11月27日 文責：校長

11月15日（土）に「小城市少年少女の声」大会がゆめぱらっと小城で開催されました。本校からは6年生の〇〇〇〇さんが代表で発表しました。スピーチも堂々としたもので、とても頼もしかったです。

題名は「修学旅行で学んだ戦争と平和」です。素晴らしい作文です。ぜひお読みください。

今年の六月、ぼくたちは修学旅行で長崎へ行きました。長崎は、八十年前に原爆が落とされた場所です。社会の教科書では「原爆」という言葉を知っていましたが、実際に長崎へ行き、原爆資料館を見学したこと、教科書だけでは分からなかったことを強く感じました。

資料館の中には、たくさんの展示がありました。ガラスが溶けて曲がってしまったラムネのびん、真っ黒にこげた建物のもけいなど、予想をこえる物ばかりでした。

その中で、ぼくが一番心に残ったのは、こげてしまった弁当箱と、焼けてしまった子どもの洋服です。その弁当箱は、ふつうにお昼ご飯を食べるために、お母さんが作ってくれた物だったはずです。でも原爆が落ちたしゅん間子どもの命はうばわれ、弁当箱だけが黒く残っていました。お母さんが朝から作ったかもしれない弁当が、そのまま食べずに最後になってしまったことを思うと胸がしぬつけられるように痛くなりました。焼けた洋服も、そこにいた子どもがどれほど苦しんで痛い思いをしたのかを考えると、とても悲しい気持ちになりました。

ぼくは今、学校に行って友だちと勉強したり、給食を食べたり、放課後はサッカーをしています。当たり前だと思っている毎日の生活が、あの時代の子どもたちは、いっしゅんでうばわれてしまったのです。ぼくたちと、同じ年ごろの子どもたちが、笑うことも遊ぶこともできずに命を失ったことを思うと、今の平和な世の中がどれほど大切かを強く感じます。

ニュースでは今も、世界のどこかで戦争や争いが起きています。テレビに映る映像の中では、泣いている子どもの姿も見られます。

ぼくには、三才の妹がいます。いつもニコニコして、お兄ちゃん一緒に遊ぼうと言ってきます。とってもかわいいです。そんな妹が、戦争にまきこまれるかと思うと、悲しい気持ちになります。

ぼく一人の力では、世界から戦争をなくすことはできないかもしれません。でも平和を大切に思う気持ちは、だれでも持つことができます。そして、その気持ちを次の世代につないでいくことが大切なのだと、資料館を見学して感じました。

これからぼくにできることは、学んだ戦争のこわさや悲しみを忘れないことです。修学旅行で戦争を体験した人から聞いた三つの三原則を守ること。一つ目は、差別をしない。二つ目は、自分の命他人の命も大切にすること。三つ目はすべて話し合いで解決すること。この言葉は、ぼくの人生にとって大切な宝物なりました。あの黒こげた弁当箱や、洋服を見たときの気持ちを、ずっと心に刻みたいと思います。そして世界中の子どもたちが、安心して笑って暮らせる未来を作るために、平和の大切さを忘れずに生きていきたいです。

フリー参観へお越しください！

明後日11月30日（日）はフリー参観日となっています。多くの皆様のご参観をお待ちしています。

今回も、お子様や子どもたちのがんばりについて、ぜひ感想をお寄せください。お寄せいただいたものについては放送で紹介したり掲示をしたりします。

学校目標である、

「すべては子どもたちの自信のために」

皆様からのメッセージをお待ちしています。

ご提出は担任までお願ひいたします。

※周りを切り取ってご提出いただくとともに助かります。

年 組